

## 学 位 論 文 審 査 の 要 旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">漆原 紅</p> <p style="text-align: center;">【理学専攻 平成27年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">芳香族第三級アミドの立体特性を活かした新規フォルダマーの創製</p>	<p>本論文では、らせん構造を有する新規芳香族分子の創製研究について述べられている。具体的には、所属研究室で見いだした芳香族 <i>N</i>-アルキル化アミド結合の <i>cis</i> 型優先性という性質を基盤とした、分子を取り込むことが可能な大きさの内部空間を有する新規らせん状芳香族オリゴアミドおよび大環状オリゴマー分子の創製に関して目的、方法、考察等が詳細に記されている。本研究では、独自の立体化学研究に基づいたユニークな構造の新規らせん分子および大環状化合物の創製に成功しており、当該分野において優れた研究成果をあげたことを示している。本論文の内容の一部は、高いインパクトファクターの国際誌に第一著者として掲載されたほか、国内外の当該分野の学会で発表されている。</p> <p>これら研究成果をふまえて、学位論文審査は以下の日程で4回にわたって開催された。</p> <p>第1回は平成30年6月27日に開催した。提出された論文の内容、構成の改良すべき点への助言がなされ、第2回目以降の審査方法について審査委員の間で合意をとった。</p> <p>第2回は平成30年7月18日に開催した。学位申請者による50分程度の研究内容説明の後、各種の質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善（研究背景、目的と研究の意義、新規性のより詳細な記述、化学用語や方法の記述の不備、幾つかの図表の追加・修正や解釈の妥当性等）について学位申請者に指示を出した。</p> <p>第3回は平成30年8月23日に開催し、修正された論文の内容を審査委員の間で検討、議論し、十分に改善されていることを確認し、次回を公開発表会とすることが認められた。</p> <p>論文発表会は平成30年8月31日に開催し、申請者により、修正された論文内容に基づく発表がなされ、また、質問に対する応答は的確であった。論文発表会後の最終審査会（第4回）では、論文発表会における質疑応答および論文内容の最終確認を行った。</p> <p>以上の結果から、本審査委員会は本論文が人間文化創成科学研究科の博士（理学）（Ph. D. in Chemistry）の学位を受けるに相応しいと判断した。</p>
審査委員	<p style="text-align: center;">（主査） 准教授 棚谷 綾</p>	
	<p style="text-align: center;">教授 山田 眞二</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 矢島 知子</p>	
	<p style="text-align: center;">准教授 森 寛敏</p>	
	<p style="text-align: center;">東邦大学 薬学部 教授 東屋 功</p>	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border-left: 2px solid black; border-right: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	